

## 2007年度 立教 SFR 国際会議助成成果報告書 (A, B, C)

### 1. 会議概要

会 議 名	和文	日本社会におけるリスクの政治経済		
	欧文	The Political Economy of Risk in Japanese Society		
主 催	立教大学			
共 催	シェフィールド大学			
後 援	無し			
開催責任者	所属	経済学部	連絡先:	
	氏名	アンドリュー・デウィット	Tel 03(3985)2943	Fax 03(3985)4096
運営事務局	事務担当者	連絡先:		
	氏名	山崎由紀子	Tel 03(5841)4931	Fax ( )
開催期間	2007年 11月 10日 から 2007年 11月 11日まで			
開催場所	立教大学池袋キャンパス			
参加者数※1	学内	5名		
	学外 国内から招聘	5名		
	海外から招聘	10名	5カ国	合計 20名 4カ国
公開講演会等 参加者数※2	①	年 月 日	名	カ国
	②	年 月 日	名	カ国
開催日程		午前	午後	夜
	第1日 11月 15日	ワークショップ 開会挨拶 第1セッション	第2セッション	第3セッション 懇親会
	第2日 11月 16日	第4セッション	国際シンポジウム 第1セッション 第2セッション	懇親会
	第3日 月 日			
開催経費総額	予算額	3,032,100円	執行額	1,812,460千円

※ 1 参加者とは、会議において講演、パネラー、コメンテーター等の活動を伴う者をいう。

※ 2 一般に公開された講演会等に聴講のために参加した者。講演者、パネラー等は除く。所要経費が60万円以上の会議で参加者がのべ100人を超える場合は、参加者名簿を添付すること。

2. 開催趣旨概要
3. 国際会議の成果概要・今後の展望等

この会議は日本政府、市場、社会によるリスク調整・対処の政治経済に関する調査の報告を行うためのものである。グローバル化、技術革新などの変化に伴うリスクの増加は国際関係、経営といった研究分野で広く認識されている。また、米国や英国などの西欧諸国においては様々な政府・民間機関がどのようにリスクを調整しているかという問題について、かなりの研究の蓄積がある。しかし、日本の様々な機関が急増する国内外のリスクに対しどのように対応しているか、ほとんど研究がなされていない。この会議はこの分野の研究における日本と西欧諸国のリスクに関する研究調査の落差を改善しようとするものである。

リスクの調整過程に関する先行研究は、日本国内ではいまだ限られている。本会議では、「国家－市場－社会」マトリックスに焦点を当てることによって、こうした状況を是正し、日本におけるリスク研究の地平を広げることを目指した。そして、気候変動・エネルギー、財政、国際関係などの日本社会における様々なリスクに対して、日本政府、市場、社会がリスクの軽減とリスクの管理において果たしている役割について報告・討論がなされた。

本会議には国内外から様々な分野を専攻する多数の研究者が参加した。報告や討論を通じて日本社会におけるリスクの政治経済に対する理解を深めることができるとともに、研究者間のネットワークを強化することができた。本会議で得られたこれらの成果は研究の更なる進展に結びついており、2008年4月26日に立教大学で開催されるシンポジウム（「高まりつつある危機：経済と日常生活」）や現在編集作業中である日本社会におけるリスクの政治経済学に関する書籍は、本会議の成果を踏まえたものである。

今後の展望としては、東アジアにおけるリスクの政治経済について研究する予定である。

4. 会議の構成

(1) 学内参加者

氏名	所属・職名	会議における活動	内訳
五十嵐暁郎 池上岳彦 マーク・カプリオ 菅沼隆 アンドリュー・デウィット	法学部・教授 経済学部・教授 法学部・教授 経済学部・教授 経済学部・教授	スピーカー スピーカー・議長 スピーカー・議長 議長 スピーカー・討論者・議長	文学部 名 経済学部 3名 理学部 名 社会学部 名 法学部 2名 観光学部 名 コミュニティ福祉学部 名 経営学部 名 現代心理学部 名 その他 ( ) <hr/> 計 5名
変更内容 (氏名、不参加/追加の別)			

(2) 学外参加者 (国内、国外)

氏名	国名・所属・職名	会議における活動	内訳
Hook, Glenn	University of Sheffield, UK	スピーカー・討論者・議長	国名 名
Leheny, David	University of Wisconsin, USA	スピーカー・討論者	日本 5
Rose, Caroline	University of Leeds, UK	スピーカー・討論者	英国 5
Son Key Young	University of Sheffield, UK	スピーカー	米国 3
Takeda Hiroko	University of Sheffield, UK	スピーカー・討論者・議長	韓国 2
Yul Sohn	Yonsei University, Korea	スピーカー	
Kim Sangjoon	Yonsei University, Korea	スピーカー	
John Campbell	University of Michigan, USA	討論者・議長	計 4カ国 15名
Peter Matanle	University of Sheffield, UK	スピーカー	
Elliot Brownlee	University of California, USA	スピーカー	
井出英策	横浜国立大学	スピーカー	
金子勝	慶応義塾大学	スピーカー・討論者	
長谷川治清	同志社大学	スピーカー・討論者	
荻谷剛彦	東京大学	スピーカー	
山崎由希子	東京大学	スピーカー・議長	
変更内容 (氏名、不参加/追加の別)			
不参加			
Foerster, Christian, Han Seung Mi, Kendall, Gavin, Rosa, Eugene A, 佐々木寛、神野直彦、高原明生、Lindsay Black、大沢真理			
追加			
Peter Matanle, John Campbell, Elliot Brownlee, Yul Sohn, Kim Sangjoon			